

働く歯科技工士の年代は？ 十年後以降に 一気に歯科技工士は不足するか 今こそ政治で改善を。

統計表4-1 歯科技工士数，年齢階級・年次別 各年末現在

	S57	59	61	63	H2	4	6	8	10	12	14	16	18
	1982	1984	1986	1988	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006
総数	26 658	29 339	31 139	32 518	32 433	32 629	34 543	36 652	36 569	37 244	36 765	35 668	35 147
25歳未満	6 281	6 065	5 344	4 771	4 140	4 315	4 615	4 581	4 150	3 760	3 170	2 493	2 417
25～29歳	6 341	7 599	8 075	7 645	6 387	5 218	4 961	5 383	5 160	4 998	4 676	4 125	3 291
30～34	5 037	5 254	5 746	6 663	7 108	6 761	6 114	5 312	4 681	4 424	4 446	4 285	4 206
35～39	2 223	3 428	4 680	4 986	5 084	5 504	6 317	6 845	6 235	5 561	4 636	4 153	4 076
40～44	1 743	1 601	1 711	2 703	3 827	4 353	4 623	5 122	5 807	6 421	6 315	5 453	4 599
45～49	1 824	1 929	1 786	1 572	1 445	1 903	3 066	4 239	4 432	4 628	5 111	5 663	5 907
50歳以上	3 209	3 463	3 797	4 178	4 442	4 575	4 847	5 170	6 104	7 452	8 411	9 496	10 651

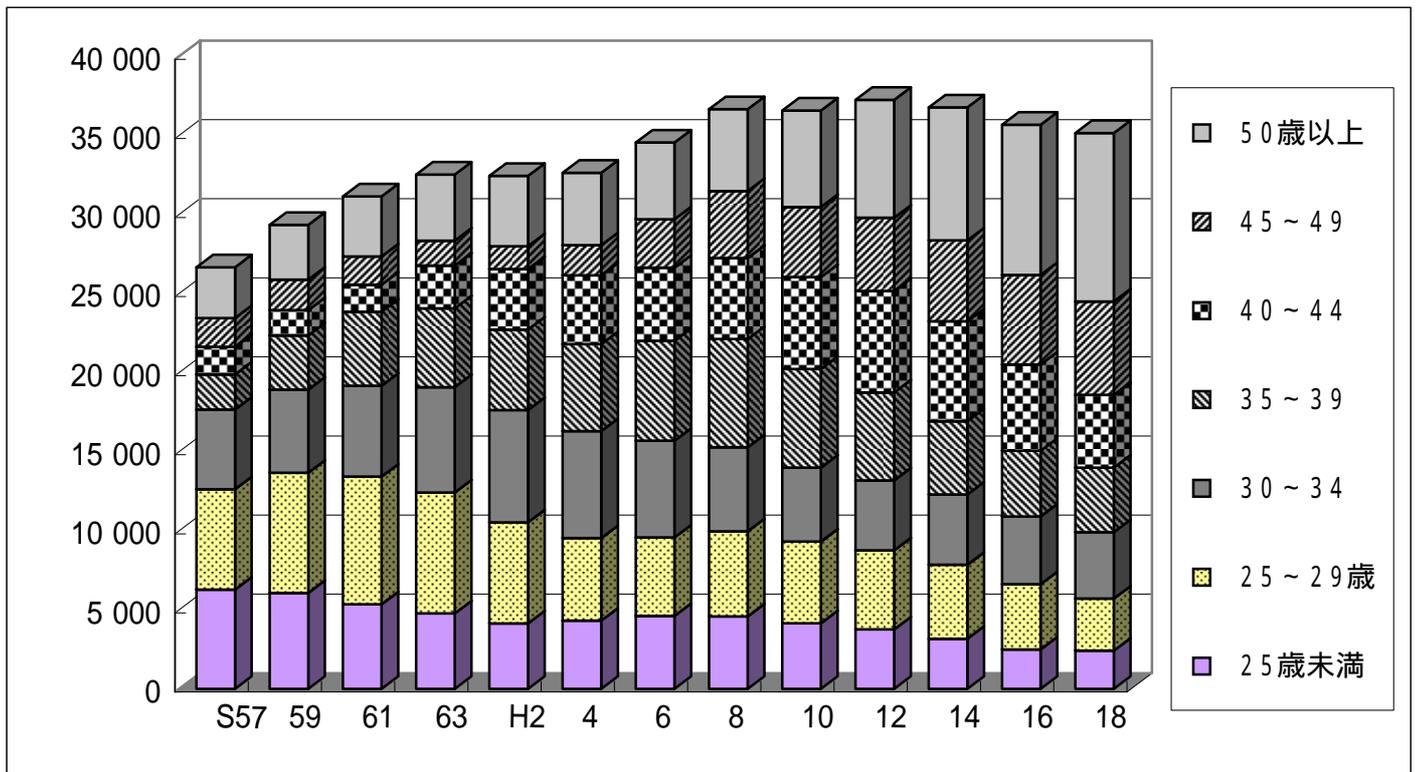
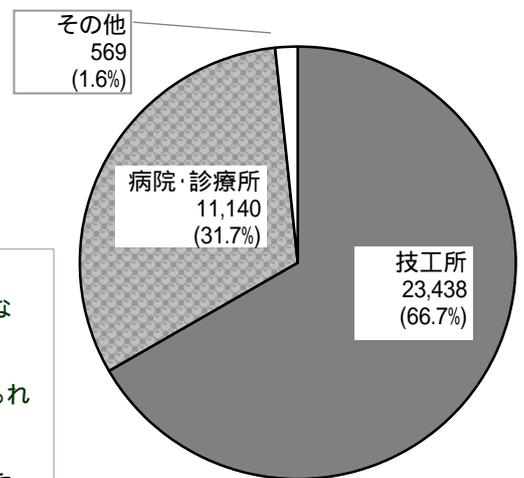


図7 就業場所別にみた就業歯科技工士数

総数	病院・診療所	技工所	その他
35,147	11,140	23,438	569
100	31.7	66.7	1.6

人数 %



1983年、歯科医師国家試験から実技試験が廃止され、以後続く。
 このことで、特に49歳以下の歯科医師では、技工技能が国家試験で担保されていない。
 “技工”は歯科技工士が担うことが、費用対効果で国民利益である。
 歯科補綴装置の技工は、事実、歯科技工士が担う。
 しかるに、就業歯科技工士は一気に高齢化し、近い将来の大量リタイアは避けられない。
 国外からの供給補い思惑は、資格法・薬事法に疑義、時間的要求等からも問題。
 志望者は激減している。離業も進む。社会保険で技工経済を放置(虚構)しすぎた。
 技能の修養には、適切な先輩歯科技工士の下で十年間程度を要する。